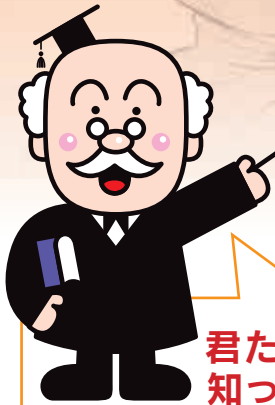


夏休み
企画

民に寄り添い生きた「こっぼうもん」

賀島兵介

かしまひょうすけ



君たちは「賀島兵介」を知っておるかな？

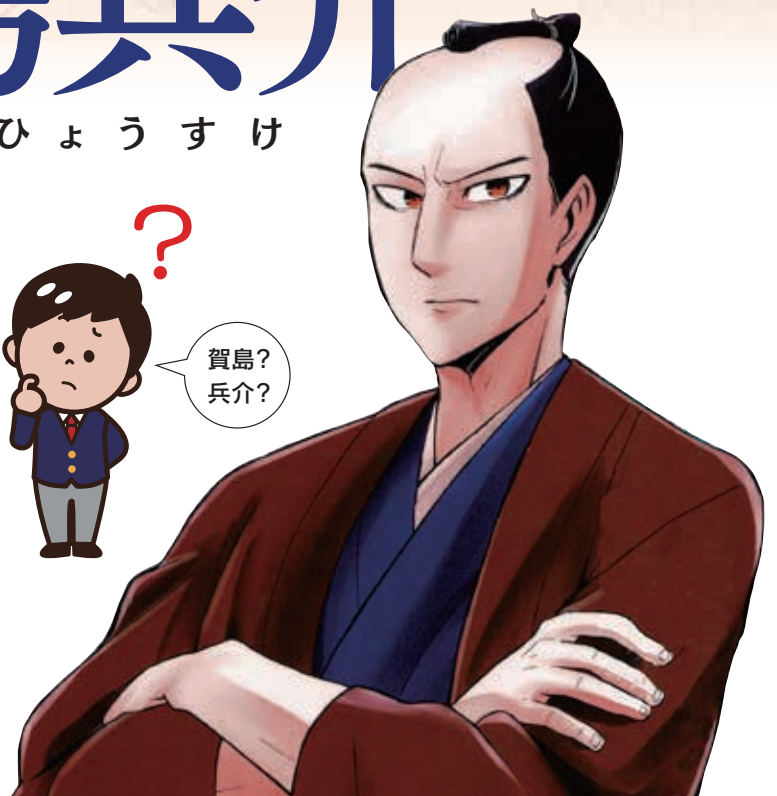
江戸時代はじめに活躍した対馬藩の武士で、本名を賀島兵介成白なりあきらといい、別名、賀島恕軒とも呼ばれておる。

対馬藩の飛び地「田代」の副代官や藩の大目付だった賀島兵介は「陶山訥庵」「雨森芳洲」とともに、対馬三聖人と呼ばれておるのじゃ。

残念ながら、対馬では、ほかの2人よりも、あまり知られていない賀島兵介じゃが、かつて副代官として活躍した田代では、今でも多くの人たちに慕われておるのじゃ。



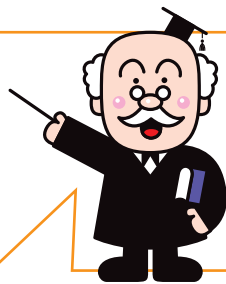
賀島？
兵介？



マンガで描かれた賀島兵介



田代？



対馬藩が慶長の役に参戦し活躍したほうびとして与えられた領地で、現在の佐賀県鳥栖市と基山町付近にあるのじゃ。飛び地というのは、対馬藩が対馬以外に治めていた土地のことで、山が多く水田が少ない対馬にとって、平地が多い田代は、米の生産地としてとても重要な場所じゃった。

そのほかにも田代は、長崎街道により多くの人が行き来する場所でもあったのじゃ。その中で、田代売薬と呼ばれる製薬業も起こり、湿布薬で有名な久光製薬など、田代売薬をルーツに持つ製薬会社が多く残っておる。

現在も水田が広がる



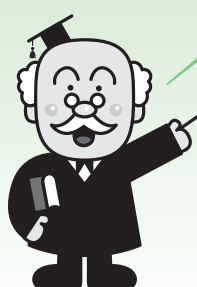
ココ→★

田代で作られていた薬のパッケージ



※こっぼうもん…対馬の方で、頑固者や聞き分けのない人などの意味があります。

自らの信念を貫いた生涯



今から370年ほど前、府中（厳原）で生まれた賀島兵介は、53歳で亡くなるまで、自分のことよりも人々の幸せを第一に考え、対馬のために真心を尽くして仕えたのじゃ。



賀島兵介肖像（賀島家所蔵）

- 正保 2 年(1645)…… 府中で、対馬藩士 賀島成尚の子として生まれる
- 寛文 4 年(1664)…… 大小姓（藩主の使者などを務める役）となる
- 延宝 3 年(1675)…… 田代代官所の副代官となる。荒廃した田代を改善するため、赴任の翌年、領民に向けて、壁書33カ条を出す…①
- 延宝 8 年(1680)…… 飢饉が発生するが、壁書による領民への指導や、行政改革などが功を奏し、田代での餓死者なし
- 貞享 2 年(1685)…… 対馬へ帰任する。善政を行った兵介への感謝を込め、田代の領民は、幕末まで毎年、年貢米とは別に150石ものお礼米を送り続けた
- 貞享 4 年(1687)…… 対馬藩の大目付（藩や藩士の監察をする役）に抜擢される。34カ条の言上書を藩主に提出するも、伊奈に流罪となる…②
- 元禄10年(1697)…… 幽閉先の伊奈で、死去（享年53歳）
- 安永 5 年(1776)…… 死去から約80年後、罪が許され、お家再興を許される



①田代の副代官として、田代の建て直しに着手

兵介が赴任した当時の田代は、自然災害などが続き、とても荒れておつての、領地から長崎などへ逃げ出す農民もおつたのじゃ。そこで兵介は、壁書33カ条を定めて、領民に生活改善の手法を示し、副代官である兵介自身も、領民とともに儉約に努め、農民が苦しむことなく年貢を納めることができる環境を作ったのじゃ。さらに、治水工事や新たな産業の育成を図り、田代全体の生産力の向上を図ったのじゃ。こうした兵介の姿勢に感謝した領民たちは、兵介の任期延長を藩に何度も願い出るようになり、通常の3倍、11年もの間、副代官を務めることになったのじゃ。

②命をかけて、藩の不正を調査・報告

兵介が抜擢された大目付という役職は、藩や藩士の不正を監察するのが役目じゃった。田代で領民とともに、苦しみながらも藩に尽くした兵介からすると、自分の利益や保身のために不正を働く家臣が多い、藩の状況をだまってお見過ごしできなかったのじゃな。

乱れた藩の内情と、これからの対策を記した34カ条にもわたる言上書を藩主宗義真に提出したのじゃが、この言上書には、対馬の行く末を案じるあまり「家臣の不正は藩主の実責任である」という厳しい言葉が記されていたため、藩政に混乱をもたらしたとして罰せられ、流罪となったのじゃ。



対馬三聖人の思いの源流が賀島先生にある

対馬三聖人の「賀島兵介」「陶山訥庵」「雨森芳洲」のうち、一番最初に活躍していたのは、賀島兵介先生です。

言上書を出し、伊奈に流罪になった兵介に対し、陶山訥庵先生は、藩の決定は大変残念であったとの手紙を送りました。そして、そのあとも、手紙のやり取りを行っては、賀島先生の意見を聞いていました。訥庵先生が行ったイノシシ退治の大事業の際には、直接会って議論を行ったようです。賀島先生の領民を第一に考え、対馬の未来を考えるという思いは、訥庵先生へ受け継がれ、さらにはその訥庵先生に影響を受けた、雨森芳洲先生へと引き継がれていきました。

3人が、それぞれの立場で取り組み、歴史に残る出来事には、対馬の藩政へのはっきりとした理想があり、対馬があるべき姿が共有されていたと思います。その意味でも、自らを省みず対馬のために行動するという、賀島先生の取った行動は、三聖人の思いの源流になっていると思うのです。



対馬市文化財保護審議会
小島 武博 会長

感謝の気持ちを後世に

兵介によって、安定した生活を手に入れた田代の人たちは、兵介が対馬へ戻ってもその恩を忘れることはなかった。対馬に戻った貞享2年には、兵介を顕彰する手記「基肄養父実記」を作り後世に伝えたほか、兵介が亡くなった約100年後の、寛政6年3月には、田代の安生寺の境内に兵介の徳をしのんだ石碑を建立したんじゃ。



建立された石碑と、
そこから見渡す田代の水田



現在も続く賀島公祭 (福岡対馬会提供)

毎年づく顕彰の灯

石碑が建てられたあと、兵介の命日にあたる4月9日には「賀島碑墨直し」と呼んで慰霊を行っていた。明治時代に一時途絶えたが、現在も引き継がれておる。

今年も、4月9日に、佐賀県基山町主催の「賀島公祭」が行われ、かつて田代だった、佐賀県鳥栖市や基山町の人たちをはじめ、対馬からの参加者、対馬にゆかりのある人たちが参加して執り行われたのじゃ。



こんなに大切にされているとは知りませんでした



川辺 茉和さん (厳原町出身)

対馬高校を卒業し、今年4月から佐賀県に住んでいるご縁もあって、初めて賀島公祭に参加させていただきました。私は、賀島兵介さんについて、つい最近知りました。対馬でもあまり知られていないと思います。

しかし、賀島公祭には、田代に関わりのあるたくさんの方が訪れ、毎年盛大に行われています。兵介さんのことを、すごく大切にされていることがとてもよく分かりました。田代の人たちが、このようにしてくださっていることを、対馬の人たちはもっと知った方がよいと思いました。また、兵介さんのことを、もっと知ってほしいとも思います。賀島兵介さんは、対馬が誇れる大切な人です。

賀島公は基山町のベースを作った方です

賀島公は、田代において、抜本的であり革新的な改革を数多く行い、今の基山のベースを作った方だと思います。

彼が行ったことを調べていくと、貧しい領民への対策や、川の氾濫に備えた治水事業など、領民の暮らしに寄り添ったことを行っています。現代に言い換えれば、貧困や防災への取り組みと言え、まさに今、私たちが取り組むべき課題です。

私たち、行政に関わるものは、賀島公が400年以上前に行ったことを振り返り、現在の行政運営に生かしていく必要があるのではないのでしょうか。ちなみに、基山町の町長室には、歴代の基山町長の写真が掛けられています。その一番目には、賀島公の肖像画が掛けられています。ぜひ、町長室に肖像画を見にいらしてください。



町長室に掛けられた肖像画



松田 一也 基山町長

対馬でも広がる顕彰の灯



対馬では、あまり知られていない賀島兵介じゃが、近年、もっと知ってもらおうという取り組みが進んでおる。3年前から、兵介が眠る巖原町の海岸寺で慰霊祭が行われているほか、兵介をはじめとする対馬三聖人を紹介するマンガが作られておるぞ。



鳥栖にある代官所跡などを訪れた対馬の子どもたち



対馬の自然や歴史を体験した鳥栖の子どもたち



平成29年11月に鶏鳴小学校の児童が鳥栖市を訪問して兵介の足跡をたどり、翌年の8月に鳥栖市の小学生が対馬を訪れ、平和学習や対馬の自然を体験するなどの交流が今もなお、行われておるのじゃ。

賀島兵介の姿勢が今の世に必要

私の父が、賀島兵介の子孫といとこ同士だった縁もあって、賀島兵介について興味を抱いていました。色々と調べていく中で、20年ほど前、田代の人たちが、数百年の時を超えて、今でも賀島兵介のことを慕っていただいていることを知りました。一方、対馬ではその名はほとんど知られていない状況に矛盾を感じ、いつか光を当てたい、歴史の中で埋もれてしまった賀島兵介の功績を、対馬の人たちに知ってもらいたいと思うようになりました。

3年前の没後350年を機に、慰霊祭を行い、マンガを作るなどの活動をスタートさせましたが、多くの市民の方に興味を持っていただき、大変ありがたく思っています。私は、歴史上の人物が、後世で再評価されるとは、その時代の人々の思いによって呼び起こされるからだと思います。今、賀島兵介が再び歴史の表舞台に出てくるということは、自分の利益ではなく、人々の幸せを真っすぐに考える賀島兵介の行動が、今の時代に生きる私たちに必要とされているからだと思っています。数百年の時を超えて、賀島兵介が発信するメッセージをこれからも伝えていきたいです。



マンガ「賀島兵介」を制作した
松原一征さん

江戸時代、対馬から遠く離れた場所で、その地に住む人たちに寄り添って政治を行った賀島兵介は、田代を離れ対馬で亡くなってからも愛され続け、その思いは今でも大切に受け継がれておるのじゃ。対馬には、誇るべき人物がたくさんおる。その誇りを後世へと伝えるために、君たちが何をするのか、歴史の彼方から、先人たちは見ておるぞ。

